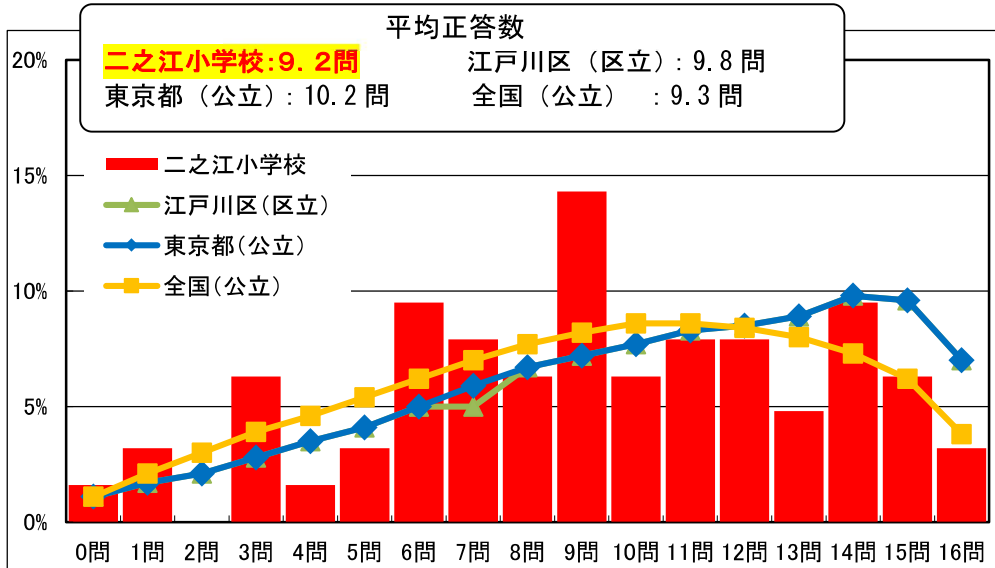


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 二之江小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 15~16問	B層 12~14問	C層 8~11問	D層 0~7問
二之江小学校	9.5	22.2	34.8	33.3
江戸川区(区立)	22.7	25.9	27.9	23.5
東京都(公立)	26.4	25.7	27.6	20.3
全国(公立)	17.3	25.0	31.4	26.3

【平均正答率の差】

二之江小学校	58.0%
江戸川区(区立)	61.0%
東京都(公立)	64.0%
全国(公立)	58.0%
都との差	-6ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

【分析結果と授業改善に向けて】

本校の平均正答率は63%(都70.0%、全校66.8%)であった。都とは-7ポイントの差がある。「図形」領域で、本校の平均正答率が61.5%(都61.2%、全国56.2%)であった。都を0.3ポイント上回る結果であった。今後も実際に作図する技能を大切にしたり、図形の性質を考えながら弁別したりする活動を大切にしていきたい。一方、「測定」の領域で本校の平均正答率が44.5%(都60.5%、全国54.8%)で都や全国と比べ大きく下回っている。設問4(2)の本校平均正答率が42.9%(都65.5%、全国60.9%)と都と比べても-22.6ポイントの差がある。この設問は「はかりの目盛りを読むことができるか」で学習内容としては、第3学年で学ぶ内容である。この設問の本校の無答率が9.5%(都4.4%、全国4.2%)である。最後の問題の本校無答率が7.9%(都4.2%、全国4.1%)であるところからも、目盛りの読み方が分からなかった児童が多くいることが分かる。授業改善に向けて、算数科の学習では、課題把握をていねいに行い、何が問われているのかを捉え、どのように解決していけばよいかの見通しを持たせたり、自分の考えを友達の考えと比較・検討し、よりよい解決方法を身に付けていったりすることを大切にしたい。また、既習の知識や技能を確実に身に付けさせるために、ICT等を積極的に活用しながら授業や家庭学習で自学自習できる力も養っていきたい。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果

